

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東京大学

後期日程

科目

総合科目Ⅱ

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	100点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

データの整理、物理現象を題材とし、数理的な思考力を問う問題であるが、数学以外の予備知識はほとんど必要ない。数学Ⅲからの出題も多く、文系の受験生には昨年同様厳しかったであろう。

〈特記事項・トピックス〉

文系の受験生も数学Ⅲ・数学Cの教科書レベルの問題を解く学力が必要である。
120分の解答時間で全問解答するのはかなり厳しい。

〈合格への学習対策〉

高度な数学の計算能力は必要としないが、短時間で問題の意味を把握し、解答できる訓練を積み重ねておく必要がある。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
第1問 A	記述	Ⅱ	多変数の不等式の証明	(A-2)の論証が難しい。数式の意味を考えれば多少解きやすくなる。	やや難
				典型的な確率と漸化式を絡めた問題である。	標準
第2問 A	記述	B Ⅲ	数列の評価と関数の評価	漸化式で定義される数列を不等式で評価し、それに対応した微分方程式で定義される関数を不等式で評価する問題。 ただし、微分方程式の知識が必要であるわけではない。	標準
				連続的な現象を離散的なモデルの極限としてとらえる問題。 力のつりあいの知識は必要である。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。